

鹿児島の昆虫 56



*平成29年3月25日(土)~6月11日(日)まで開催

昆虫担当 金井 賢一

家庭菜園や街路樹などにケムシがついてると、「うわ！」と驚く方も多いでしょう。でも、世の中にはイモムシやケムシという生きものはいません。チョウやガあるいはハチやコガネムシの仲間の幼虫が、いわゆる「イモムシ・ケムシ」と呼ばれています。

幼虫とは、栄養を吸収する特殊な生活段階です。モリモリ食べてサナギになる準備をするために、栄養を取り込むことを第一目標にしているのです。「はら」が一番大きくなっています。遠く離れた場所へ移動するのは苦手ですし、子孫を残すために結婚相手を探すこともありません。

多くのチョウやガのメスは、数十から何百という卵を産みますが、ほとんどは鳥や肉食の昆虫、あるいは寄生バエなどに食べられ、成虫にはなれません。小さなときには鳥の糞の模様に化けたり、大きな目玉模様を持ったりと、幼虫はさまざまな生き抜く工夫をしています。それでも多くが死んでいきます。そんな厳しい毎日を生き抜いている幼虫、そして無事に成虫になれたチョウやガを見ると、今までとは違った気持ちで観察できますよ。幼虫たちの姿形や生き方を、是非じっくりと観察してみてください。サナギから成虫になる神秘的な瞬間を、目撃できるかもしれません。

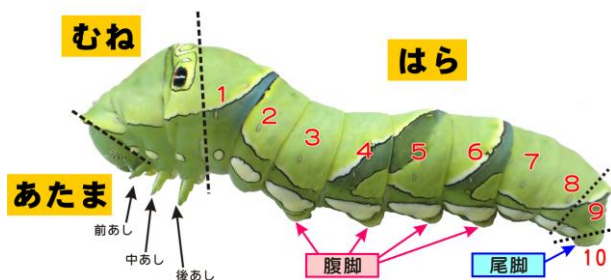


図1. ナミアゲハの幼虫

「あたま」には目(単眼)が5個あり、「むね」には「あし」があります。単眼の数は、種によって異なります。口には吐糸管という糸を出すつくりがあり、葉につけたその糸をつかんで歩いたり、マユを作る種もいます。

昆虫の「はら」は、10個の節に分かれています。「あし」のようにはたらくイボ状突起は、腹脚(ふくきやく)といいます。尾には尾脚(びきやく)というつくりがあり、腹脚と尾脚で枝などをしっかりとつかみます。

毛をたくさん持つもの、トゲを生やすものなどいますが、毒を持つのはチャドクガやイラガなどごく一部なので、区別して覚えましょう。

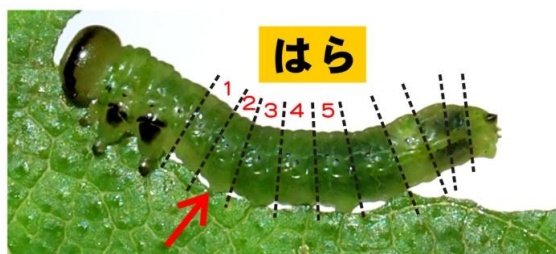


図2. ハバチのなかまの幼虫

チョウやガの幼虫によく似ていますが、「はら」の第2節にも腹脚がある点が異なります。



図3. ヤナギハムシの幼虫

コガネムシのなかまは、腹脚を持ちません。カブトムシの幼虫も「むね」の「あし」しかありません。